



Relive Journal
“りらいふ” ジャーナル

平成26年 晩秋号

(11月10日発行)

ニュースレター版 14号

<目次>

- | | |
|--|-------------------|
| 1. 新年度（第8期）のご挨拶 | 理事長 竹川 忠徳 |
| | 副理事長（関西支部長） 阿賀 敏雄 |
| 2. 『R&I 特集』 フィリピン・セブ島で発生した、ロングステイ詐欺事件の顛末について
セブ島ロングステイ詐欺商法詐欺者「コロナの会」 | |
| 3. 「趣味の養蜂」
講演 平松 敬生 | 事務局 |
| 4. 豊中の歴史を語る
講演 瀧 健三 | 廣瀬 純 |
| 5. 何事も創意工夫・人生を楽しく面白く
講演 角井 博 | 大澤 泰 |
| 6. 第3回「歌声喫茶に参加して」
会員 中野 豊治 | |
| 7. エッセイ・自分たち探し「ほのぼのマイタウンより」
フリージャーナリスト 國米 家巳三
“STAP 細胞事件は理系集団の限界を教えてくれました” | |
| 8. シリーズ「いまなぜブラジルなのか」（完結編） 川村栄太郎 講演記
会員 植松 彬 | |
| 9. ホビ－教室を訪ねて
伊丹淳一 | |
| 10. りらいふ サロンのご案内「日本語教師でトクする話」 “りらいふ”塾塾長 鈴木 信之 | |
| 11. バリ コミュニケーション（10月号）
会員 平川 龍 | |
| 12. ニュージーランド・クリストチャーチ レポート（11月号）
会員 島村 晴雄 | |
| 13. バリ・ロンボク レポート（11月号）
会員 島村 晴雄 | |

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 芝栄太樓ビル 4F VIPシステム内

●TEL 03-5733-2311 FAX 03-5733-3532

●Mail: info@retire.org ●ホームページ: <http://retire-info.org/>

●リタイアメントジャーナル: <http://retirement.jp/>

（発行責任者） 事務局 豊口 一美



1. 新年度のご挨拶

●理事長のご挨拶



理事長 竹川 忠徳

今般、リタイアメント情報センターは第八期を迎えますが、皆様に於かれましてはご健勝で、多方面にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

近年の日本の少子化高齢化の対応策の一つとして、政府は定年延長施策を次々に発表しております。その影響が当該センター理事長人事にも及び、数名の候補者の方々から「現職延長を乞われて・・もう一寸待って」と繋れない返事が続きまして、本期も私が、ご挨拶をさせて頂くことになりました。

本期の理事会人事異動と致しましては以下の二点です。

関西支部長の阿賀敏雄さんに副理事長兼任として当該センターの運営に一層の関与をお願いし、角谷三好さんがタイ国内の大学教授としての授業数の激増という理由で、暫く理事を辞されることになりました。

発足当初は、お年寄りを狙って頻発した、海外ロングスティや自費出版等の詐欺事件の「駆け込み寺」としてのボランティア活動が多く、NHKのクローズアップ現代や毎日新聞等のマスコミに取り上げられましたが、およそ6年の歳月を経て、それらの裁判にも結審の報が入っております。地方裁判所への交通費まで自弁でご対応頂いた弁護士・太田治夫理事には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

コラムニストの立波音さんによると、このボランティア魂を「モウコリタ」と言うそうです。これは、「ジコチュー」の反対用語で、阿賀副理事長の渾名「タコチュー」の類似語にあたり、漢字では、「忘己利他」と書くそうです。そして、「目の前のコトを心から大切にし、目の前の人を喜ばせる精神。もう懲りたではなく、忘己利他で幸せは来る。」がその意味だと云うことです。

ことほど左様に、「継続は力」です。本期も奇を衒うことなく、「りらいふ憲章」を遵守し皆様のお力を借りつつ、第二の人生を送る方々に役立つ情報を提供し続けたいと願っております。非営利活動法人リタイアメント情報センター、その名の通り。

●副理事長（関西支部長）のご挨拶

副理事長（関西支部長） 阿賀 敏雄



この度は副理事長なる大役を仰せつかり些か緊張致しております。しかし背伸びしても始まらない。いつも通りに身の丈にあった平常心で臨みたく存じます。何卒、皆様方の益々のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。いつも三つ位の明日のスケジュールをメモしてから眠りにつきます。ハード過ぎず退屈過ぎずの年相応のNPO活動スケジュールをこなすことで一日が過ぎます。一日を振り返ってみて笑顔の出会いを思い出す時が至福の時です。

（写真 手前左 阿賀副理事長、右 竹川理事長） 自分の笑顔が多いときは笑顔の人にお会える回数も増えることに気付きました。これからも一層笑顔を絶やさぬように心掛けて参ります。

笑顔と言えば、我がNPOリタイアメント情報センター関西支部の開設当初から顧問としてご指導頂きました素敵な笑顔の熊代紘一さんが懐ばれます。

生まれ変わったらどんな人になりたいですかと問われれば…私は躊躇することなく「熊代紘一さんのような笑顔の素敵な人になりたいと…」答えるでしょう。

8月末に熊代紘一さんの大学時代の同期の人が懐ぶ会を開くと聞き、懐ぶ会に参列させて頂きその思いは一層強いものになりました。懐ぶ会に100名近い人が参加され、また、51名もの皆様から追悼文が寄せられていました。関西支部を育てて頂いた故熊代紘一さんのお人柄が懐ばれます。

本期は熊代さんの分も併せて、笑顔をふりむきますので、皆様、宜しくお力添えの程、お願い申し上げます。



2. 検察不祥事でつぶされた？ フィリピンセブ島詐欺事件の顛末

詐欺師を野放しにする捜査当局に、高齢被害者の怒り！

セブ島ロングステイ詐欺商法詐欺者「コロナの会」

平成26年7月15日、弁護士会館で、フィリピンセブ島で起きた詐欺商法被害者の会による、記者会見が行われました。この事件は、今から8年前に発覚し、「ロングステイ詐欺商法」としてマスコミでも大きく報道されました。

リタイアメント情報センターでも、設立当初から注目し「被害者の会」を応援すると同時に、その活動をリタイアメントジャーナルやホームページ等で伝えてきました。

その後、警視庁に告訴受理され、捜査が進められてきましたが、昨年末に時効目前で検察によって不起訴が決定しました。日比の2国間に跨っていたこともあり、事件そのものの構図は複雑ではありませんが、通常のこの種の事件よりは捜査しにくい状況にあることは、最初からわかつっていました。それでも被害者と半年近い協議を経て、捜査2課では告訴案件を一本に絞り受理した事件です。



それが何故時効ギリギリまで、引き伸ばされて不起訴という決着となったのか？

これについて、被害者の会では納得できる説明を得られなかったことが、記者会見を開いた理由の一つです。

「通常受理した時点で、検察とも話はしているから、やれるという判断はあったはずだ。それがこのような結果になるとは、異常事態としか思えない」とある警察OBは語っています。

その異常事態の背景は、度重なる検察不祥事にあるよう

です。その結果、簡単な詐欺事件の捜査すら必要以上に証拠の裏付けに拘るあまり、踏み込んだ捜査ができないように自縛自縛になっているのが現在の検察の姿なのだとということです。

「それでは、常に捜査体制の裏をかくことを狙っている知能犯の捜査など出来はしない。そもそも検察の想定内の詐欺事件などあるはずはないのだから、そういう事件しか起訴できないというのでは、この判断は、ある意味検察の敗北宣言に等しい」（前出警察OB）しかも時効の2週間前という時期での不起訴でしたから、検察審査会への不服申し立ても時間切れで、門前払いとなってしまいました。まるでそれを狙ったかのような検察のやり方に、被害者たちは本来の詐欺商法の黒幕に対する怒りに検察に対する怒りも加わっての「記者会見」となりました。以下は、被害者の会によって綴られた、この事件捜査と検察の判断に対する疑問と問題提起です。

« フィリピン・セブ島で発生した、ロングステイ詐欺事件の顛末について »

世に高齢者を狙った悪徳商法や、詐欺商法の根は絶えず、取締当局もマスコミを通じて注意を呼びかけています。増大する被害者の数に比例して、実際に事件として受理され、捜査される件数は限られており、多くの被害者は泣き寝入りするしかない現状です。 警察、検察の捜査体制にも限界があり、受理した全ての案件で、加害者を罪に問うことは難しいことは私たちも知っていますが、私たちが経験したことは、あまりにも非道で、納得できない事でした。



今回の事件で検察が不起訴の判断を行ったのは、時効のわずか2週間前のことです。告訴してから2年8ヶ月も日が経っており、それについて納得がいかない私たちに、検察官が発した言葉は「警察が無能だから」という一言でした。

しかしその時私たちの心に浮かんだのは「無能なのはあなたたち検察ではないのか?」という想いでした。

それは告訴した結果が思うようにならなかったことで、我儘な子供のような感情から浮かんだ言葉ではありません。担当が警察から検察に替わってから、そのように思わざるを得ない根拠となる、数々の出来事を経験してきたからです。それならば、検察審査会に申立てて、それに伴う記者会見を行うなど、何らかのアクションが伴っていることが、記者の皆さんとの理解を得やすいことは、相談したマスコミ関係者からも伺いましたが、不起訴の結論が時効直前だったことから、検察審査会への申し立ても門前払い同様の扱いとなっています。

私たちが、被害を公表し世間に訴えたのは、金銭の回収が目的ではなく、社会に警鐘を鳴らす為と、司法による責任者の追及、処罰を望んだからです。にもかかわらず、私たちのような普通の人間、社会的にはリタイア、高齢者と呼ばれる人間が、詐欺事件の追及を続けたあげく、検察捜査への疑問にまで直面せざるをえなくなったことに、この国で詐欺被害者が増え続ける理由の一つがあると思います。

以下、私たちが検察捜査で体験した事実を申し上げます。

1、どのような詐欺商法だったか。

2006年12月、被害を民事訴訟に提訴したことで、大きく報道されました。

この詐欺商法の首謀者であるKは、当時フィリピン在住の日本人でした。フィリピン・セブ島のリゾート開発地のロングステイ用不動産の権利を販売すると偽って、日本の高齢者複数から多額の現金を受け取りながら、現地の土地所有者にはほとんど支払いしなかったため、被害者らは、現地価格の5倍もの値段を支払っていながらも、土地の権利を取得できなかったという詐欺商法です。これは、利殖のための不動産投資ではなく、実際に余生を南の島で過ごしたいという希望を持った高齢者が、長年コツコツ貯めた老後資金を奪り取るという極めて悪質なもので、民事訴訟の判決（2008年11月原告勝訴）でもその悪質さが指摘されていました。

《ロングステイ詐欺商法の実態》

事件は平成11年1月から12年の10月頃にかけて、フィリピン・セブ島中部のリゾート開発地、コロナデルマール地区で起きました。日本人向けに、ロングステイ用の土地を購入して、借地権を売りますという、日本人業者の宣伝がマスコミを通じて行われました。

そこでは将来介護もできるという、サービスもついていたため、老後の理想的な生活ができる信じて、業者の言うままに、私たちは、そこに長年貯めた老後資金を投じてしまいました。

しかし、実際は、その業者は土地を購入していなかったため、私たちはお金を支払ったにもかかわらず、借地権は手に入りませんでした。その事實を知った被害者数名が連絡を取り合って、被害者の会を結成し、当時フィリピン在住だった責任者Kを追及すると、Kは一度は返金するといいながら、連絡がとれなくなってしまいました。

Kの詐欺商法の手口は、フィリピンでは外国人が土地所有できないという制度を利用して、フィリピン人の名前で現地法人を設立し、その現地法人が、コロナデルマール地区の開発をしていたフィリピンの大手開発業者F社から土地を取得して、日本人に借地権を販売するという仕組みを作ったことから始まります。

当時、日本ではロングステイブームのはしりでしたから、Kの商法はシニア向けの情報誌やテレビ番組でも紹介されていました。

Kはセブの現地法人と同名の日本法人の事務所を渋谷に構え、私たちを誘い、私たちは日本人が窓口になっていることに



安心して、契約を結びました。

Kの悪質さは、最初から事業失敗にみせかけようとしていたと思われることです。成功事例として、いくつかのケースをつくり、それを看板にして、私たちを巧みに誘い、土地代金を支払わせることに成功すると、その金はF社に支払われることなく、どこかに消えてしまったのです。

厳密に言うと、一部F社には割賦支払いし、途中で支払いを止めたケース、全くF社には支払われていなかったケースなどの違いはありますが、いずれにせよKが入手した金額からすればF社に支払われていた金額は微々たるもので、まともに事業継続しようとしていたとは考えられません。

私たちがそれを知った時には、既にKの現地法人は消滅しており、私たちはコロナデルマールの分譲地に何の権利も残されていませんでした。

被害者の会の中でも異なる被害があります。告訴人のように、全く何の権利も残されていなかった人。とりあえず家は建てたものの、Kが土地の購入資金を払っていなかったことから、F社から、住み続けるのなら土地購入をすることを求められ、泣く泣く別に現地の名義人を立てて二度払いした人もいます。

しかし、Kは日本人には現地価格の5倍もの値段で売り付けていましたから、最初の数人から得た資金だけでもかなりの土地を確保できていたはずです。本当に事業をやるつもりであったらですが…。

またその後の調査で、Kの会社の実態がとても経営と呼べるようなものではなく、現地のフィリピン人スタッフの給料も未払いだったことも明らかになっていました。

Kは、他にも被害者に現地事業への出資を持ちかけて多額の損失を与えたり、家の建築資金を横領するなどしており、被害者4組6名が実際にKに騙し取られた金額は約8000万円に上ります。

また、Kは「南フィリピン大学教授」と経歴詐称し、セブ島の日本人事業家に事業投資話を持ちかけ、寸借詐欺のような行為を繰り返していました。

さらに、私たちを騙した後も、場所と名前を変えて、同じような介護とロングステイで日本人を騙す詐欺商法を再開していました。私たちはそのパンフレットなども入手して、この人物がこうした詐欺商法の常習犯であると確信しました。

幸い、私たちの活動がきっかけになり、大きくマスコミ報道されたため、Kはセブ島での活動がやりにくくなり、日本に帰国せざるを得なくなったもようです。

こうしたKの実態を見れば、庶民感覚としては、「事業失敗」という言い訳はとても通用するものではありません。しかし検察は、そこに踏み込もうとはしませんでした。

2. もともと刑事事件にするための民事訴訟だった。

今の日本の制度では、詐欺で奪われたお金を回収することが難しいことは、理解していたので、私たちは、金銭目的ではなく、刑事事件としてこの詐欺商法と首謀者Kの追及を願っていました。

当時所在不明となっていたKを、悪質商法の首謀者として社会的に追及するためと、刑事告訴するための情報、証人を集めるために裁判を起こし、その成果をもとに警視庁に告訴したのは23年4月14日で、警視庁捜査第2課で受理されました。



《 資料 》 告訴事実の概要

1. 告訴年月日 平成23年4月14日警視庁受理

2. 告訴事実の概要

被告訴人は、退職金等の資金を有する高齢者を対象に、高齢者が東南アジアの不動産を購入して現地でゆとりある第二の人生を過ごすことを勧奨し、いわゆるロングステイビジネス（現地の不動産購入・転売と高齢者向け介護施設の運営）を展開すると標榜していた会社（日本法人）の実質的経営者であった。

被告訴人は、同人がフィリピン・セブ島で設立した現地法人が、実際には同島コロナ・デル・マール地域に土地を所有していないにもかかわらず、あたかも既に土地を所有していて、告訴人に対して借地権を設定できるかのように装い、現地法人に直ちに借地権を設定させるかのように言って、借地権を購入するよう申し向けた。

その結果、告訴人らは、被告訴人の言うことを真実と誤信して、平成11年12月、被告訴人の会社に対し、合計750万円余りを詐取される結果となつたため、刑法246条1項（詐欺罪）で告訴するに至った。

3. 事情

- 告訴人が、支払った代金の対価として得たものは何もない。
- 公訴時効との関係

告訴受理時点で、本件犯行から11年余りが経過していたが、被告訴人は、5年3ヶ月余りの期間フィリピンに在住していたため、公訴時効期間は停止していた（刑事訴訟法第255条第1項）ので、公訴時効は成立していなかった。

※対象となる借地権

所 在 セブ州タリサイ市プウク・コロナデルマール地域

区画番号 11-17D

面 積 150平方メートル

賃貸借期間 25年間

そして 2年8ヶ月後の昨年12月5日、時効直前になって、「不起訴」通知（東京地検立川支部）を受けました。

4. 検察は事件の全体像を理解しようとしていたのか？

不起訴の理由は、「K」が土地を取得しようとしなかった証拠はない」「K」の供述を覆す証言がどれない」というものです。

要するに検事の考えは「詐欺ではなく事業失敗だ」という相手の主張を崩せるだけの証拠がないから、ということのようです。

被害者の会は4組6名ですが、告訴したのは1件だけです。難しい事件だということは、私たちもわかつっていました。そのため時間かけて、告訴の準備をしてきました。警視庁で受理されるときの話し合いで、2国間に跨る事件でもあり、難しい捜査になるから、被害者は複数いますが、確実に立件するために、一件に絞って告訴することになりました。

わたしたちが、「K」に支払った権利金は総額4,100万円です。

一方、「K」のディベロッパーとの契約総額は860万円（わたしたちの支払額の5分の1です）で、実際の支払い額は230万円、未払い額630万円です。「K」は約4,000万円を取得したことになります。

このほかにも「K」は、わたしたちからの「横領」の疑いのある資金を加えますと8,000万円もの資金を確保しました。現



地の開発業者に支払う能力は充分ありました。

確かに「K」は、告訴人の借地権の対象とした土地を、その契約の数年前にディベロッパーに「購入申し込み」をし、きわめて僅かな申込証拠金の支払いをしていました。ただ、それだけの状態で、「K」は、「K」の現地法人が土地の所有者であると告げて契約をし、直ちに告訴人に借地権が発生するように言って、告訴人に現地土地代金の5倍もの権利金を払わせました。しかし、「K」は、告訴人から受け取ったお金を、現地開発業者には一銭たりとも支払いませんでした。のみならず、その後間もなくして他の被害者の土地の割賦代金の支払いも止めてしまっています。

「K」の行動は、私たち素人が裁判のために集めた証拠資料からみても、正常な事業者として考えられない点があまりにも多いのです。

警視庁も受理した段階で、その悪質性は理解していたようです。2国間に跨る事件ということで難しい事件であることは承知の上で「受理」されたということを、捜査のプロの判断として、私たちは重く見ていました。捜査官もやる気満々で、「起訴できなければ土下座しますよ」とまで言っていましたが、ある時期から表情が変わって、最終的には「申し訳なかった」と詫びの言葉を発していました。

その結果が、まるでKの「事業失敗という言い訳」を追認するかのような検察の「不起訴」という判断です。

いったい何が起きたのか、私たちは理解できません。

しかし検察が言うように「警察が無能だった」から、不起訴になったとは、どうしても思えないのです。

検事はKの実態を踏まえてこの事件をみていたかどうか。

事件の全体像を理解しようとしていたのか極めて不審に思われるを得ない事柄が、いくつかあります。

実は、検察の送致後、最初の聴取に、質問が事件の実情とかけはなれた内容であったため、2回目の聴取時にわたしたちの被害全体像を説明しようとしたら拒否されました。被害の全体像について詳しく知っている、被害者の会の代表の参考人としての同席を求めたところ、拒否されました。

その検事から、既に警察に提出した資料を求められました。わたしたちは、同じ資料を提出しました。検事は送致された資料を読み込んでいたのでしょうか?

5. 初めから「不起訴」ありきでなかったか?

「K」は警察と検察でのそれが全く相反する供述をしていますが、検事は、時効ぎりぎりになって上記の供述の「ウラ」がとりたいとして、現地フィリピン人ディベロッパーの職員の招致を要求してきました。現地関係者を呼ぶ必要性については、警視庁への告訴の時点から指摘がありました。そうした関係で時間がかかるからと、一件に絞ることで告訴が受理されたのです。

私たちが警察から知りえた限りでも、この件で警察は検察にかなり早くから報告を上げていたようです。にもかかわらず、時効寸前になって、わたしたちが現地の企業の責任者に要請、交渉する期間を無視した検事の要求にも不可解なものを感じます。

確かに詐欺の捜査は証拠固めが難しいといわれます。

しかし、証拠がそろわなければ立件できないというのであれば、早々に関係者を呼ぶ必要があるのは明らかで、何故時効ぎりぎりまで、引き伸ばすようなことを検察はしたのでしょうか?

検察審査会への申立ができないような、措置をとったのではという疑惑の目で見られてもしかたないし、少なくとも被害者が放置されたままで、検察が警察に責任をなすりつけるような結果では、充分な検査がなされたと納得できるものではありません。ちなみに、今回検事は、

「公判に負ければ、あなたたちは被告からの名誉毀損、損害賠償、民事裁判の見直し請求などを受けるおそれがあり、国に対



する賠償請求もありうる」とわたしたちに告げましたまるで、私たちを恫喝するかのような発言であり、いったい誰のための検察なのか非常に憤りを感じました。

このような検察の責任をあいまいにするかのような対応や、最終的に審査請求のできない状況に追い込むようなやり方は、被害者の泣き寝入りが繰り返される惧れがあります。

警察、検察の捜査体制や意識の緩みが「K」のような加害者の「詐欺やり得」「騙し得」の事情をつくっているのではないで
しょうか?

終わり

3. 楽しい趣味の養蜂の勧め

講師 平松 敬生

本年春に開催したミニセミナーにて平松様から大変興味深い趣味の養蜂についてご講演をいただきましたので、皆様にもご紹介させていただきたく、当日配布していただいた講演資料「趣味の養蜂」を掲載させていただきます。

・・・なぜ養蜂

定年を考えて40歳頃に購入した伊豆の土地。春には椿、サザンカ、桃、桜、蜜柑など初夏にかけ、花盛りとなります。私は第2の就職口が三重県（松阪市）でした。定年寸前（6月）、大台町の道の駅で購入した蜂蜜が素晴らしい味で、出品者を訪ねたところ老夫婦が養蜂をしていました。そんなことがあり伊豆で養蜂をしようと考えました。

7月初めに横浜に戻り、養蜂合宿で有名な車山のペンション「銀の匙」に電話したところ、今年の研修（7月）は終了したので、来年とのこと。

1年間待てないので、自己流で開始することにし、2月に養蜂業者から2郡を取り寄せました。

・・・購入費用など

● 養蜂器具セット	全21品、蜜蜂1群付	・・・・・・・・・・・・約18万円
● 養蜂指南書	新しい蜜蜂の飼い方 井上丹治著（東京大学農学部卒・故人）	
● 資材販売業者	(有)間室養蜂場、熊谷養蜂（株）（以上埼玉県）	
	(株)秋田屋本店（岐阜県）	
● 蜜蜂の価格	間室養蜂場 3枚群女王蜂入箱	2万6千円
	熊谷養蜂 //	3万2千円
	女王蜂1匹	1万1千円

・・・どのように管理すれば

欧米では養蜂は管理が必要なため、リタイアした経営者や管理職に最適な趣味とされています。

- 内検 概ね10日毎に蜂の巣箱をすべてチェックする。
 - ①女王蜂の状態 ②分蜂の可否 ③産卵、育児、集蜜
 - ④給餌・・・砂糖液
 - ⑤病気・・・ダニ、スムシ、チョーク病、腐蝕病
- その他
 - ①外敵・・・スズメ蜂、つばめ、スムシ
 - ②農薬散布





・・・採蜜

●春の蜜（4月～6月）

- ・花の香り高く、非常においしい。
- ・伊豆はさくら、椿、蜜柑の他 藤、エゴ、夏椿など木の花の蜜。

●夏の蜜（7月～8月）

- ・栗、リョウブ、つる草などの蜜。濃厚で甘いが癖があります。
通常、1群で20Kgが採蜜できます。
10年に1度多くの植物が蜜をだし、1群で40～50Kg採蜜できることがある。
2003年、2013年がその年でした。
- ・蜜 集めた蜜はネクターと言い、水分が多く蜂の酵素が回っておらず、蔗糖が葡萄糖、果糖に分解されていない。
蜂は羽の風で水分を飛ばし、酵素の働きで蜂蜜にし、完成すると蜜蓋で封印、保存する。この段階になってから採蜜します。



・・・秋～冬の管理

- 冬越しに向けて蜂の育成に注力します。
- 最盛期には1郡に2～3万匹の蜂がいます。秋は産卵が低調になりますが、冬越しの勢力維持のため蜂数を増やします。
冬、蜂は集団で羽を震わして発熱し
28度位の室温で冬を越します。蜂数は最低3千匹。
- 2月中旬から産卵し、育児を開始。冬越しした蜂は3ヶ月の命を終えて、生まれた蜂と交代します。
女王蜂は2～3年生き続けます。
冬越しは結構難しく、秋のスズメ蜂の襲撃で、蜂数が少ないと寒さで死滅します。3群冬越しして12群が越冬します。

・・・養蜂の勧め

- 土地が狭くても蜂は飛び、集蜜します。
 - 東京・・・千駄ヶ谷の社民党のビル屋上（藤原養蜂が7～8群維持。）
 - 銀座でボランティアが2群ほど飼っています。
 - パリ・・・オペラ座屋上8従業員が養蜂し、売店で蜜を販売
- 管理が大変重要です。手を抜くと分封したり、蜜不足（餌不足）、スムシ、女王蜂不在などトラブルが発生し、衰退します。
- 国産蜜は貴重なので、差し上げると大変喜ばれます。
蜜の量が毎年不安定なため、ビジネスとしては難しいでしょう。レストランに全量納めるのであれば、3～5群（が限界）で可能です。
- 庭で蜂が巣箱から飛びるのは、にぎやかで楽しいものです。
住宅のベランダや庭で飼育できます
ので、思い切ってやってみてはいかがでしょうか。



(講師と手作りの窯)



4. 豊中の歴史を語る会

(講演 瀧 健三)

平成 26 年 7 月 10 日 開催 於 ベルウッド

廣瀬 純

豊中生まれの豊中育ちの私にとって極めて興味深い講演でした。生家（岡山の宝山町）の裏は千里川まで田んぼでした。そこが幼少期の最高の遊び場でした。田んぼの中にはヒヨウタン池と称する爆弾が 2 個落ちて形成された池もあり、フナやモロコの宝庫でした。

千里川はハヤやカワエビの宝庫で夏休みは一中ジャコ捕りに精を出していました。ツクシは勿論、中秋の名月の飾りのススキや餅に入れるヨモギなども繁茂していて採取しました。千里川で産湯をつかった（？）と言っても過言ではありません。その千里川がその昔、恵の農業用水だったり、ある時は洪水を引き起こす難儀な川というお話は特に興味を引きました。

（現在の千里川景色）

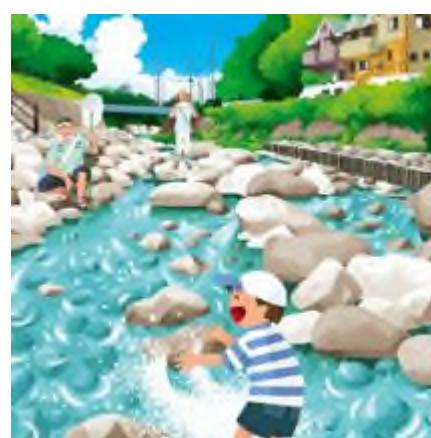


昔の百姓の水に対する執念にも痛く感服しました。

北摂津の古街道の話も造詣が深く、数年前に家族で能勢街道を踏破した（？）ので、より興味を持って聞き入りました。多くの豊中市民が買い物、レストラン、公共交通を利用するだけでなく、家族で古街道を散歩して歴史や文化の景観に思いを馳せて欲しいものです。



資料として戴いた古地図も興味深く、現在の街並みを思い浮かべるとまさしく今昔物語です。道路網の整備、空港の開設と発展、住宅地域の拡大、田んぼやため池の減少、阪急電車の開通、高速道路の開通、などなど日本でも特筆すべき激変の都市です。その結果、今の豊中には田んぼや畠などの「癒しの地」が激減してしまったと嘆くのは私の単なる感傷でしょうか？ 私は現在箕面市に住んでいますが、田んぼや畠が多く残り、自宅前には



川も流れ、遠くには箕面連山も観望できます。昔の豊中を感じられるのです。

私は建築家で都市計画にも関心がありますが、何ゆえ、ふるさと豊中は縁と文化を捨ててしまったのでしょうか？無秩序、無計画に開発され、世界的標準から考えても均衡のとれた発展をしませんでした。多くの豊中市民が龍

先生の「水と暮らし」を知り、学び、反省し、より豊かな豊中市へ創り変えられることを心から祈念します。

（豊中市HPから）



5. セミナー 「何事も創意工夫——人生楽しく面白く——」

講師 角井 博

大澤 泰

講師の角井様は、大正 14 年、和歌山県伊都郡高野町で生誕。幼い頃から軟弱でこの分では「徴兵検査には受からないぞ」といわれ、当時これに受からないということは男として屈辱。子供ながらに何とかせねばと思い、体力増強のために積極的に肉体労働（山林の廃材撤去等）を買って出てがんばったとのこと。

男は人生 20 年といわれた時代（戦争出陣のため）兵隊はあこがれだったのか？ おかげで検査にうかり戦争に参加したもの、数か月で終戦ということになったのであるが、当事者から聞く話には感動があった。本題である定年後のリタイアメントの話に移る。人は誰も、定年後の人生を有意義に過ごしたいと思うものである。最もここまで生きて来られるまで、たびたび大病を経験、大手術も数度行ったとのことであるが、この辺の話は省略。

そんなわけで講師の角井氏も将来の生きがいとなるものをいろいろ考へ、その拳旬ます陶芸に目をつけたとのこと。最初は七輪（しちろん）を改造して小物の焼き物に取り組んだがやがて登り窯まで自作、かなり凝ったようであった。

しかしまっと面白いものを見つけ転向。それが本題「木工細工」である。これは幼い頃、氏が経験した山と山作業から来たものであろう。木材に愛着があったそうだ。現在は川西市に住まれており、近くの山から廃材をかき集め、その木に命を吹き込むごとく素材を生かした作品を作り始めた。これが始まりで、そのうちはいろんな木製品をつくり、装飾品も加工した。工具も自分で工夫し、ミシンや洗濯機のモーターで旋盤、サンダーを作り、圧力釜で硬い木に形を整えるなど工夫をしたとか。とにかく作品で足の踏み場もなかったとか。

「切り絵」は紙をはさみで切り作るが、講師のそれは薄い板を電動ノコで切り、その細密さは紙の切り絵に決して劣らない。象嵌の技術も身につけられ、装飾されていたのには驚いた。

今、凝っておられるものは、落ち葉を拾って来て、これで皿、器を作るということ。いろんな植物の葉を素材にし、木の葉の形をした作品を見る事ができた。

実際の作品を会場に持ってきてくださり、手に触れることができた。枯葉を器にする取り組みには試行錯誤でいろいろ発見され、成功されたときの喜びはどれほどのものであったことか。

作品製作のためにあらたな方法を見出し挑戦すること、発生した不具合は創意工夫で改善すること、毎日考えること、これに勝る楽しさはないとのこと。ひらめいたときは、夜明けが待ち遠しいそうだ。

現在は川西市木工芸協会会長。年齢は 89 歳とのことだが、外見が 20 歳ほど若く見えるのは私だけではないと思う。わたしも定年後に老後の楽しみにと絵画をはじめた。年齢の差は比べ物にならないが、原点に共通の思いがあり親しみを感じた。さいごに「人生を楽しく面白く」というモットーは、健康第一は言うまでもなく、「寝る前に明日の夢をみること」だそうだ。「生きる明日に希望と喜びを託す」というのが講師の信条である。

6. 第3回「歌声喫茶に参加して」

会員 中野 豊台

病を得た私の体調を気遣って、色々な催しに誘い出して下さる関西支部長の阿賀さんにはいつもお世話になり感謝しております。この歌声喫茶もその一環として、お声をかけて頂き夫婦で参加する様になりました。幼いころの懐かしい童謡・唱歌・青春時代の歌、また社会人になってから、そして今リタイアして、時間が出来て…。

ベルウッドのママさんから一曲ごとにその歌の背景の詳しい説明が入り、歌いながら色んな思いがよみがえってきます。声が出にくくなった私には、声帯のリハビリに良いとの事で行ってみようと決めましたが何よりも心のリハビリになりました。また、バンドを担当して下さる皆さんのお演奏は回を追うごとに本格的になり、今回は時間も忘れじっくり楽しめて頂きました。次回も体調に気を付け参加出来ますよう心待ちにしております。





7. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」

STAP 細胞事件は理系集団の限界を教えてくれました

(フリージャーナリスト 國米 家巳三)

「日本は世界でもめずらしいほど職人を尊ぶ文化を保ちつづけてきたが、近隣の歴史的中国や歴史的韓国が職人を必要以上にいやしめてきたことにくらべて、“重職主義”的文化だったとさえいいたくなる」

これは司馬遼太郎が書き残した1節です。「歴史的日本」は職人を大名待遇にする例があるなど、刀工から陶工、石工まで広く職人全体を尊重してきました。

明治19年東京帝国大学が誕生したとき、工部省工部大学校を吸収して世界初の総合大学による工学部設置をみたのも、この重職主義を引き継いだことになります。

昭和になって、パナソニックの始祖、松下幸之助が新技術の開発による特許料を山のように稼いで、それで国民を養い、「無税国家」にしようと主張しました。これも重職主義を発展させた「技術立国」「科学立国」の究極の姿を描いてみせたものでしょう。

ただし、重職主義にも負の側面はあります。大企業のトップに理系が多く、それだけ企業内の理系の発言力が強いため、消費者を無視して過剰な機能を付加した製品を市場に送り出すケースなどが頻発します。また、霞が関のある官庁では理系が隠然たる力をふるって省内全体を壟斷している。「技監は文系の役人がバカにみえて仕方がないようですよ」と、この省の中堅は語っています。

こうした理系の負の典型例が理化学研究所（理研）の小保方晴子事件。今年1月小保方さんか新型のSTAP細胞の作製に成功したと記者会見し、メディアはこそって「世紀の大発見」とはやしました。が、そのわずか2週間後、彼女の研究論文に不正疑惑がもちあがり、またまた日本中が大騒ぎ。理研はただちに小保方さんの失態にメスを入れる調査委員会を立ち上げましたが、その委員長自身の論文にも瑕疵がみつかり、辞任。その他の調査委員にも相次いで似たような問題が浮上しました。

理研は100年近い歴史をもち、年間830億円余の血税に支えられて科学立国の希望を担う存在です。天下の理系の秀才中の秀才。エリート中のエリートを集め、いまやその研究動向は海外からも注目されて「世界の理研」となっています。しかし、今回の小保方事件によって理研はすっかり国民の信頼を失った。いったいなぜ、こうなったのでしょうか。

「理研にはチェック体制がまったくない」といったのは上昌広・東大特任教授。政府も国民も、理研内部の高度の研究の中身は理解できません。また秀才たちは性善なる人々だという信仰が、むかしからこの国にはあります。それやこれやでどこからも批判されない一種の聖域ができてしまった。これが最大の誤りだったのでは・・・エリートといえども人間。独善的になったり、堕落したり、バカもやる。現に「STAP細胞はあります。200回作製に成功しました」といっている小保方さんを再現実験からはずして別の研究員にまかせることにしたあたり、かなり理研はズッコケている。「小保方は不正があったから信用できない」にしても、本人が「STAPはある」といつている限り、彼女に再現させてみなければ決着はつきません。外部の有識者（文系中心）でつくった理研改革委員会は、さすがにその点に注目、小保方さんを再現検証に参加させるべしと勧告し、理研もそれに従うことになりました。

要は、エリートにも重職主義にも、当然、負の面があります。それを克服するために理系社会を聖域化することなく、透明性を高めていく。理研はチェック部門と広報部門を置き、定期的に内部の研究成果を、許される範囲で分かりやすく発表し、国民との接点を設けたらいいと思います。

こくまい・かきぞう 元産経新聞記者・東久留米市在住



8. シリーズ「いま、なぜブラジルか?」 (完結編)

講演 川村栄太郎 於: ホテル・アイボリー 会員 植松 彬



最近の話題… 最近のデモ

最近デモがありましたが、僕が渡航した55年前の9月30日にサンパウロの市長が急に市電とバスの運賃を上げたのです。その時も、その日の晩から「ケブラ ケブラ(壊せ 壊せ)」運動が始まったのです。バスのガラスは割る、市電のレールを堀返す…最後に迷惑したのは市民…。今回も同じ理由の、バスの運賃約10円上がるからデモが発生し、初めはブラジル的な昔と同じケブラケブラだと思っていたのですがちょっと様子が違うのです。最初のデモで4人死亡したというのですが、その内3人は交通事故で死亡、一人は

心臓麻痺で死んだ…結局デモで死んだ人はいなかったのですが、今回は中間層が増えてきて意識が変わってきているのです。昔のように遊び半分のデモと違って、市民意識が高まってきてデモの内容が変わってきたのです。だから国全体で100万人以上が参加しています。中でもサッカー王国であるブラジルが、ワールドカップのためにお金を使い過ぎた、教育や福祉のためにお金を使えと主張する、アンチワールドカップ派もいるのです。今までの社会運動とは大きく変質していると感じます。

次は治安問題…

今サンパウロが非常に悪くなっています。2016年のオリンピックを控え治安強化しているリオのスラム街が観光化してきて、それと反対にサンパウロの治安が非常に悪くなっています。特にレストランに集団で襲い、客と店の金や物を強奪する事件が度々起こっています。今年(2013年)1月から6月の間のサンパウロでの自動車盗難件数が122,282台、強盗にあった車は55,031台、窃盗は67,251台という。また、これは妻の友人の実際あった話ですが、日本人駐在員夫人が日中に信号で止まって車窓を開けていたら、ヒッタクリにネックレスを引きちぎられた。よくあることですが、後日同じ場所を通りかかったら「次は本物をつけて来い」と盗人から言われたと…

ブラジルでは、普段はイミテーションの飾りをしているのです。ジョークのような本当にあった話です…。

ブラジル経済の減速…

リーマンショックの後は回復してあまり影響を受けないで7.5%ぐらい経済成長したのですが最近少し悪いです。アメリカのFRB(連邦準備制度理事会)が景気を持続させるためにお金を出していたが、バブル化を避けるために縮小しないといかん…と一言言った途端に発展途上国から資金が流出…ブラジルからも中国からも出していく…それと中国の景気がヨーロッパ経済の影響などで減速し、鉄鉱石の値段が下がってきています。輸出量も減っています。これらの要因でブラジル経済は減速しています。去年は0.9%しか成長しなかったのです。今年は回復し2.3~2.5%だろうと言っていますが…ただ内需が盛んでGDPを支えている要素になっています。…来年のワールドカップ…全世界から人も集まるし、ブラジル国内の経済も活気づくことでしょう。

在日日系ブラジル人

次に在日ブラジル人…一時35~36万人いましたがリーマンショックの景気調整で、多くのブラジルからの出稼ぎ労働者が整理され、その後も帰国が止まらず、2013年6月現在約18,5644人。そのうち約60%(114,632人)が永住資格取得者となっており、国籍取得者や日本への定住化が進んでいます。

以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。(大拍手)

質問「お嬢様の育て方についてお尋ね致します。お嬢様は現在外資系のホテル王と称され活躍されているとお聞き致しておりますが…」

ホテル王とはとんでもございませんが、がんばって実業に励んでおります。

我が家の教育方針などと、大げさに申し上げるつもりはありませんが、考え方と経験をお話しさせていただきます。少しの参考にしていただければと…

実はこの原点は関西学院二年の夏、教職課程の集中講座でアメリカの教育哲学者ジョン・デューイ(John Dewey)の著書「民主主義と教育」を教材にした、ハワイ出身の荒井貞夫教授の「教育学原論」の講義を受けたことです。1916年に発行された本です。僕がこの本を今読んでみても難しくて全く理解できないのですが、荒井先生が子どもを教育する、教育とは子どもが持っている「個の唯一性」「個の尊厳性」(先生の自昨の言葉)を見出し、育てること。…この言葉がズーと僕のそれからの人生で頭



から離れないので。それが思考・行動の中心になっているのです。

うちには二人の娘がいます。(今 44 歳と 41 歳です)この子ども達が社会に出たとき、どんな大人になっていれば… 世間の役に立ち、仕事ができる成人になるため、どのような想いで育てたらよいか…そんな時もこの二つの言葉がます浮かびました。

今でこそ大学の教育方針が「グローバル人材の育成」とか、「世界市民を育てる」などと主張していますが、実は我が家では 35 年前にそのことを考えたのです。(今考えたら~。) この娘たちの唯一性、この子らが持っている神から授けられた才能が何であるかというのを(個々の子どもの性向・能力)一日でも早く見出して育ててやるのか教育で、親の責任だ…何かやりたいと言ったら、必ず信じて支援してやるのが親だということを、夫婦でよく話し合い、子供の成育を見守ってきました。

だけど背を押さないと前へ出ない、臆病で消極的な娘だったので。そこでプラスアルファを考えて…グローバル人材の条件ですが…この子ども達が社会へ出たときに、仕事ができるように、まず徹底的に英語を身につけようと考えました。周りはポルトガル語、日本語を話しています。そこで小学校の時から二人の英語の個人教師にお願いした。…初期にフルブライ特留学された日本婦人と若いイギリス人…フルブライの先生は歌から教えました。次女は今もアメリカに住み、仕事をしていますが非常に発音がいいです。これも幼いころ歌から覚えた英語だからかも知れません。中学校を出るときには二人とも(ブラジルに居りましたが…ほとんどの英語で日常会話が自由に話せるようになっていました。それともう一つ大事なことは、「国際人として育てること」。国際感覚とは知識としてではなく、どこの国の人とも…人種とか国籍とか民族とかを乗り越えて誰とでも…「隣り人」として交わされる感覚を持った子どもに育てたい、ということがあつて機会があるごとに、そのような環境に参加させました。…特に良かったのはブラジルがそういう機会が多い国だったことです。

実はブラジルのアメリカンスクールを、長女は 1 年生が終ったとき、アメリカへ留学したいというので、どうしてかと聞くと、休み時間になるとアメリカ人はアメリカ人、日本人は日本人、韓国人は韓国人それぞれ集まって話している。英語上達のため全く英語だけの環境に入りたいと希望したので…それならとアメリカの大学で美術の先生をしている友人に電話でホームステイをお願いし、カンサス州のハイスクールに独りで転校して行きました。

…実は僕はいつもソロバンを弾かないで人生を考えました。ソロバンを弾くと、何もできないのです。まず想い、望みをもつことが大事です。計算ばかり先行すると何も実行できません。その時の収入から考えたら子どもをアメリカへ…出来るはずはないのですが、希望しているなら成就させようと…16 歳で独りで渡米し、アメリカのハイスクールに入り、1 年目に飛び級して卒業して大阪へ一時帰国しました。久しぶりにおばあちゃんと一緒に生活し、その間にアメリカの大学入学準備のため…希望した南カリフォルニア大学、スタンフォード大学の両大学から入学許可の通知を受けたのですが、南カリフォルニア大学が好きだといって入学し…(次女も続いて同校に入学しました。)

大学を出るまでは親の責任だと思います。ピアノ科を卒業しても社会に出た時、役立つのは困難だと、途中でコースを変えないとブラジルの我々のところへ電話で言ってきたのですが、バイオリニストでもニュースキャスターに採用される時代だから、卒業してから考えようアドバイスしました。

卒業後は自分で小さなアルバイトの広告を見てロスアンゼルスのグランドシェラトンホテルへ面接を受けに行きました。1 時間半ほどの面接の後、その女性(後の上司)出口まで見送っていただき、そのときの仕草が大変気に入って、私もこういう人になりたいと思った…これがホテル業界に入ったきっかけになったようです。…卒業してからそのホテルに入社して…2 年目に僕が訪ねた時には秘書付きのマネージャーになっていました。その後長女は自力でイギリスの国立大学ウェールズの経営学修士(MBA)を取得し(1893 年にイギリス女王ヴィクトリアの勅許により学位授与権限を与えられた学位授与機関) 次女も南カリフォルニア大学経営学部を卒業し、アメリカで MBA を取得…二人とも現在ホテル業界でがんばっています。…長女は今、東京一部上場会社の代表取締役・CEO に就いています。…国際会議に毎年出席していますが…ある時、ディナーになると日本人は日本人どうし集まる…それではあまりメリットがないからというので、長女は他の席に着いた・その隣の席に着いた人が香港のホテル王と言われる大財閥で…その方は東京一部上場の会社の経営者で、業績があまり思わしくなかったのです…娘に日本の会社を任したいといわれて話が進んだ…

その前は 35 歳の時に 1200 人ほどの外資系のホテル会社にいたのですが 36 歳の時に上席副社長になり、23 のホテルの経営に当たっていました。リーマンショックで外貨の動きが変わり…そこで辞めて独立しました…。そこへこの誘いの話が入ってきて…受けるために付けた条件が会社の名前を変えることと、自分を CEO にすることなど…就任後も次々ホテルを買収して…娘が付けた AGORA というブランドで拡張しています。…

今、「お・も・て・な・し」が評判になっていますね。娘が独立した時、7 年前に付けた会社の名前がアゴーラ AGORA(ブラジル語で「今」の意味)その後に HOSPITALITY と付けたのです。これこそ「おもてなし」です。



AGORA HOSPITALITY と名付けて出発し、今はホテル8つ…近くでは堺のリーガロイヤルを一昨年に買収してアーラ・ホスピタリティ・サカイ…守口駅前のホテル・アゴーラ大阪守口、そのほか九州に2箇所、伊豆に2箇所、浅草、野尻湖など…

自分の能力を生かせる、自分の唯一性はこういう所にあるという自覚をもって一生懸命やっています。

親はいつまでたっても楽な暮らしには縁遠いですが、娘たちが一生懸命やってくれていますことに満足し、ありがとうございます。次女は長女と生き方は少し違いますが、北米ラスベガスの大規模なホテルグループのセールス・マーケティングマネー

ジャーとしてアジア地区を担当し年に二度来日します。

グローバル人材とは？ 厚生労働省・雇用政策研究会の資料では1) 未知の世界に飛び込む行動力。2) 最後までやり抜くタフネスさ。3) 自分の頭で考え、課題を解決する能力。と記しています。

国際的な仕事をする上で必要な要素となっている「自己表現力」と「集中力」は米国の大学での学習経験と訓練、幼いころからのピアノの練習の賜物と思っています。また、小さい時から英語をやらせたことは良かったなあとつくづく思っています。勿論日本人として日本語が大事であることは言うまでもありません。

何かの時の参考にしていただければ、本当に幸いです。ありがとうございました。=終わり=(大拍手)



関西支部からのお知らせ

● 第4回歌声喫茶（青春時代に歌った童謡・唱歌・クリスマスソング）

12月11日（木）15時30分 ベルウッド 参加費 1,500円

出演：ピアノ 荒木あゆみ アコーディオン 比企野 芳郎

ギター 植田 元則 クラリネット 大澤 泰

特別出演 杉浦 国裕

● 講談 旭堂 南華（有田 進様が絶賛・・・是非ともお運びください）

1月9日（金）15時30分～17時 ベルウッド 参加費 1,000円

● “りらいふ” 癒しの音色コンサート（ダルシマーによる演奏） 出演 稲岡 大介

2月12日（木）15時30分～17時30分 ベルウッド 参加費 1,500円

● 特別記念講演会（予定）

川島 康生（国立循環器病センター 名誉総長・大阪大学名誉教授）



9. ホビー教室を訪ねて

伊丹 淳一

去る9月21日（日）大阪市北区西天満にある喫茶「モナミ」の店主、中井祥子さんに喫茶店を開放して頂き、中井祥子先生の指導のもとで12名の生徒が「紙テープのバッグ作り」に挑戦した。買い物籠程度の大きさのバッグを一つ作り上げるのに大凡6時間かかると言われていたが、10時から始まって昼食を挟んで15時に何とか仕上がった。

中井先生が事前に材料の紙テapeを必要な長さに切り揃え、何もかも準備して頂いていたから、編み上げては木工用ボンドで接着して形作っていくという作業だったため、皆さん意外と早く仕上げておられた。

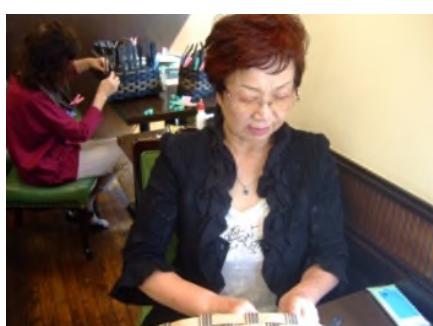
紙テapeはかなりしっかりした腰のあるもので、カラーバリエーションも豊富。それぞれに好みのカラーをセレクトして、黙々と取り組んでいる人、おしゃべりが忙しくて作業があまり進まない人など、和気あいあいと楽しい1日を過ごさせて頂いた。



小生は、版画をはじめモノづくりにおいては誰にも負けない器用さを誇っているが、これまでに取り組んだことが無い今回の紙テapeバッグ作りのようなホビーは、難しさはないもののとても新鮮で楽しい時間を過ごさせて頂いた。

仕上がりが良ければ、材料費の10倍程度で売れるとのことだが、参加者の作品がその値段で売れるかどうかは別。思い出がこもった作品はお金で買えない価値がある。

バッグ作り奮闘後は、北区の街に出て「反省会」が開かれたが、アルコールが進むにつれ皆がバッグ作りの名人になっていた。これもまた楽しい時間でした。



仕上げは透明のアクリルラッカーを塗布することで、遮水性、耐候性が備わるほか、強度も増してとても綺麗な仕上がりが期待できる。小生は家内を伴って参加させて頂いたが、家内は既に外出時に使用しており、かなり重いものを入れても型崩れしないと感心している。

お話を聞く講演会は、それはそれとして意義のあることで大いに賛同を得るところだが、自身の手でモノづくりに挑戦することの楽しさ、出来上がった作品を見て感動を覚える素晴らしさ、後日折に触れて思い出になる懐かしさは、とても意義のある時間の過ごし方だと改めて感じた方は少なくなかったと思う。



今回のホビー教室に参加してみて、「リタイアメント情報センター」の催しに参加されている方々が特技を披露されたり、今回の様に経験のない素人向けのホビーを紹介し、一緒にモノ作りに挑戦する催しがもう少しあっても楽しいように思えた。

紙面をお借りして、改めてお世話頂いた中井祥子先生にお礼を申し上げる次第です。



10. “りらいぶ” サロンのご案内

“りらいぶ”塾 塾長 鈴木 信之



《りらいぶサロン》のご案内

2014年9~11月期

※ご注意 3月より場所が移転しました

現役教師の方、これから教師を目指す方へ…

日本語教師でトクする話

目からウロコの日本語教師活用術

——プレゼンター／ファシリテーター にほんご教育コンサルタント・鈴木信之

年齢、性別、出身校、経歴などを超えて、「日本語教師」という共通テーマのもとに情報交流できる場を作りました。現役日本語教師の方も、養成講座などで勉強中の方も、海外で教えたいという方も、ちょっと興味があるという方も、ぜひお気軽に、何度でもご参加ください。

フリートークではプレゼンターへの質問のほか、参加者同士でお互いの経験や進路のこと、教授法、人間関係、その他話し合いたいことなど気軽に情報交換しましょう。

☆☆☆ 2014年9~11月期の開催 ☆☆☆

9月17日(水)・10月15日(水)・11月19日(水) いずれも18~20時

* サロンは17時より開放中。プレゼンターも来所しています。

●場所 R&I りらいぶサロン ※3月より移転しました。ご注意ください。

(東京都中央区日本橋人形町 1-19-9 古暮ビル 4F TEL 03-3668-8005) ⇒裏面地図参照

* 東京メトロ日比谷線・都営浅草線「人形町」駅 (A6番口) 徒歩1分

東京メトロ半蔵門線「水天宮前」駅 (8番口) 徒歩5分

●参加費 500円 (サロン運営費としてご協力ください)

*** 《りらいぶサロン》とは
自分自身の「生きがい」や「やりがい」を考え始めた人々。あるいは退職・離職などで新たな自分の人生の充実を目指す方が共に集まり。共に考え、共に刺激しあい、それぞれが新たな行動を開始する——。
そんなクリエイティブなきっかけづくりの場を提供します。主に退職前後の方を対象に情報提供を行う
NPO 法人リタイアメント情報センター (R&I) が運営しています。

●お問い合わせ・参加申し込みは…

NPO 法人リタイアメント情報センター (R&I) 《りらいぶサロン》(担当: 鈴木、佐野)

TEL 03-3668-8005 (月・水・金 12~17時とサロン当日のみ)

FAX 03-5643-7346 ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

E-mail appli@retire-info.org ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

■R&I 事務局本部 ■〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14-4F <http://retire-info.org>

◎ 《りらいぶサロン》利用者規約

- ・ご利用の際はサロン運営費として毎回一人 500円をご負担ください。
- ・他の利用者の迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。
- ・サロン利用時間内に限り、酒類を除き、ペットボトル・缶飲料の持ち込みは可能です。ただし、空きボトルなどは各自お持ち帰りください。食事はご遠慮ください。
- ・許可なくサロン内でのビジネス勧誘、商品販売などの営業活動はご遠慮ください。
- ・サロンは図書館内です。飲食しながらの図書館蔵書の閲覧は禁止します。



11. バリコミュニケーション (10月号)

会員 平川 龍

バリ コミュニケーション

<http://www3.ocn.ne.jp/~ball/>

第102号
2014年10月発行
PT. Care Resort Bali

バリの親しい友の結婚式に、 お客様と一緒に参列しました



9月の滞在中に、地元パンチャサリ村で2つの結婚式がありました。せっかくなので、毎年この時期にいらして下さっている「ゆう会」の皆様と飛び入りで参加させていただきました。気軽に誰でも「ウェルカム！」なところがバリの結婚式の特徴もあります。皆様もタイミングが合いましたら是非どうぞ。

○平川の親友ヌアダ元村長の次男の結婚式

初めて出会った時は小学生だったのに、こんなに立派に成長した次男君。今はまだ大学で法律家になるために勉強中。お嫁さんは大学の同級生で、とても明るくにこやかな人。参列者相手によく勧いていました。式はお祝いにいつ行ってもいい2日間で、バイキングで振る舞われました。



○やはり平川が親しい元組合長ムリアさんの子息の結婚式

こちらは、若い人が演出した派手なタイプの披露宴。ケアリゾートバリの総支配人ライの家族と同席しました。賑やかな中で主役のお二人とご両親の嬉しそうなお顔がとても印象的でした。バリの

村では伝統的な結婚式が多いですが、昨今はモダンな演出をするケースも徐々に増えてきています。

(左)ムリアさんと、皆晴れやかです

(右)ムリアさんの奥様も大喜び



伝統的に行われたヌアダ家の結婚式。ゆう会の皆様と

ヌアダ家の新郎、新婦。いつまでも仲良く、

幸せな家庭を築いていってください

パンチャサリ村の学校には…



今年、もう何回目になるでしょうか。ゆう会の皆様の学校訪問。校長室を始め、先生方と生徒はゆう会の訪問を楽しみにしてくれています。校長室には皆様の学校との交流に感謝の意を表し、日本の国旗が飾られています。教室で生徒を前に一人ひとり行うスピーチも好評をいただいているです。

校長室には日本の国旗が
今年、もう何回目にな
るでしょうか。ゆう会
の皆様の学
校訪問。校
長室を始め、
先生方と生
徒はゆう会
の訪問を樂
しみにして
くれています。
校長室には
皆様の学校と
の交
流に感謝の
意を表し、
日本
の國旗が
飾られてい
ます。教
室で生
徒を前
に一人
ひとり行
うスピ
ーチも
好評を
いた
だいて
います。

ケアリゾートバリのショップ「トコトコ」に新顔が登場！

ショップ TOKOTOKO で新入荷した地元シンガラジャのコーヒ(コーヒー)。食品はバリのお塩のみ置いていましたが、このたび新たに品揃えをしました。バリのコーヒーは豆の粉をお湯で混ぜて、粉が沈んだ上澄みを飲みます。



こちらもそのス
タイル。新商
品、お土産にい
かがでしょう
か。1パック
14000Rp(約 140
円)。



12. ニュージーランド・クライストチャーチ レポート (11月号)

会員 島村 晴雄

NZ-クライストチャーチ レポート

<http://www.ccc.govt.nz/>

2014年11月発行・その19



NZでのロングステイ、自分自身での趣味の時間が沢山増えます。

手軽な所では、近くにある広い公園へ出掛け、ウォーキングやジョギングをする。また町の道路には必ず

自転車専用レーンもあり、サイクリングを楽しむ等、日々あまりお金を掛けずに楽しめます。

NZではゴルフもあまりお金を掛けずに楽しむことが出来ます。 クライストチャーチ(以降 CHC)市内近郊に多くのゴルフ場があります。 勿論利用料金が高い名門ゴルフ場も結構ありますが、市や町が経営する



パブリック・コースも沢山あります。

これらのコースは前もって予約しなくても朝天気を確認し、ゴルフをしたい時にふらっと出掛け行ってもプレーをさせて貰えます。

時間的にプレーの途中で昼食を食べたのであれば、朝にサンドイッチや飲み

CHC 市内から車で 30 分程度で行けるタイアモンド・ハーバーにある CHARTERIS BAY G.C. の 7番ホール・グリーン近くで、湾の対岸にトルトンの町が見える。ゴルフ場は牧場に囲まれ小動物(ヘッジ・ホウズ)にも会えます。

物等を用意して、プレー途中のホールのベンチ等で、昼食を食べても咎められません。次の続いているプレーヤーがいれば、先にプレーを譲ることをすれば問題はありません。

また少し郊外のゴルフ場でプレーをすると、後続のプレーヤーが来る様子もない場合も多くあり、ゴルフ場を貸切でプレーしている錯覚にとらわれることもあります。

以前にもゴルフ・プレー料金をご紹介していますが、1Rグリーン・ティーとしての費用は、平均で NZ\$20 ~ 30 (約 1,740 円 ~ 約 2,610 円 現在 NZ\$1 = 87 円換算) 程度を見込んでいれば十分にプレーが出来ます。

CHC 近くばかりではなく、車で NZ 国内旅行へ行く場合も一緒にゴルフ・クラブを乗せていけば、景観の良い違った場所でのゴルフ・プレーも楽しめます。

筆者も最近 CHC でロングステイした時、南島の観光地のテカポ湖やワナカを車で訪問しましたが、一緒にゴルフ・クラブを持って行き時間の許す限りゴルフ・プレーを楽しみました。

ゴルフがお好きな方は、NZへのロングステイの時には必ずゴルフ・クラブを持って行くことを忘れずに。



CHC から西へ車で約1時間少し行った Windwhistle にある TERRACE DOWNS RESORT にある有名なゴルフ・コース グリーン・ティーはビジターで NZ\$90



上は TERRACE DOWNS ゴルフ・コースの池に向かって打ち降ろし10番ショット・ホール
下は11番グリーンから見降ろした Rakai River の絶景で
丁度河にジェット・ボートが通っている眺め



13. バリ・ロンボクレポート(11月号)

会員 島村 晴雄

バリ&ロンボク・レポート

<http://w01.tpl.jp/~sr09298639/>

第57号 2014年11月発行



筆者もいろいろな場所でロングステイを楽しんでいますが、殆ど一日あまり動かさずゆっくり出来るバリが今では一番ロングステイに合っているのかと思っています。

並みのホテルに長期滞在し、パラソルや木陰の下の長椅子でのんびりしながら、冷たい飲み物を飲みながら、読書したり、音楽を聴いたり、時間に追われることもなくゆっくりする。至福の時を過ごせます。都会派の方々には、つまらないかもしれません、筆者にとっては街の雑踏から逃れられて、身心ともに休まる感じです。でもこんな生活を続けられるのは、先月号にも少し書きましたが、通常は1ヶ月の範囲



筆者はバリ島サヌール滞在時
並みのホテル LHAGAWA BEACH
HOTELコテージ・タイプの部屋を
借り、毎日をのんびり過ごします

朝は少し早めに起き
景色の良いサヌール海岸で
ウォーキングを1時間程度
楽しめます

(観光ビザでは最長30日間)です。

現地で観光ビザをもう1ヶ月更新可能ですが、それでも2ヶ月以内です。

3ヶ月以上続けてインドネシアに滞在したい方は、一時滞在ビザを取得する必要があります。



並みのホテル滞在ですので
朝食バイキングもシンプルですが
別に創作料理等も作って貰えます



午前、午後と暑い時間はホテル・
プールの木陰やパラソルの下で
ゆっくり、暑くなれば少し泳ぎます



時々ホテル内通路通り
サヌール海岸へ出でて
パラソルの下でゆっくり過ごします
夜は街に出てディナータイムです

インドネシアも他の東南アジアの国々同様に観光客を継続的に増やし、外貨を獲得したい取り組みを始めています。

その一環として、インドネシア退職者ビザの発給をしています。55歳以上の方にはほぼ永続的にインドネシアへの滞在が可能となり、今憧れのバリ島でこの退職者ビザを取得し、滞在されている方が日本人に限らず増えています。

ビザ取得に際して、あまりハードルが高い条件はありませんので長期滞在者が年々増えて来ています。

必要条件は、年金証書(月額 US\$1,500(約 187,500 円)以上)または預金残高証明書、海外旅行保険(1年間以上加入証明)、現地住宅の購入または賃貸借契約書、インドネシア人の雇用誓約書、指定現地旅行社からの保証書等です。

但し、退職者ビザ取得費用実費は、1年 15,000 円掛ります。家族と一緒に連れていく場合は、年齢55歳以上の制約はありませんが、ビザ取得費用実費は同様です。

こんな退職者ビザ取得を少し考え始めた筆者です。

マリン・スポーツが満喫できるギリ・メノに一度はお越しください
& Casablanca。

<http://w01.tpl.jp/~sr09298639/> Casablanca
のお問い合わせは、 menocasablanca@gmail.com へ